

What's
Social
Business?

社会課題の解決に向けて

自立的・持続的に

提供されている事業を

ソーシャルビジネスといいます

ソーシャルビジネスを進めていった結果、地域や社会の課題解決に寄与したり、経済がより活性化し雇用が新しく生まれたりするなどの効果が期待されています。

より身近にソーシャルビジネスに親しんでいただくために、実際に神戸市の支援を受けたことのあるNPOや企業などのソーシャルビジネス事業者インタビューをしました。それぞれの事業者が社会課題に対して熱い思いで取り組んでいます。

神戸市ではソーシャルビジネスを推進するために、先進的に実施されている事業をソーシャルビジネスとしてマーク認証したり、活動資金として助成金制度を設けるなど、支援を行ってきました。

『わたしが社会を変えていく』と社会課題を自分のこととして取り組んでいる事業者のみなさんを今後も応援していきます。

神戸市の支援策

神戸市では、準備段階から安定段階までソーシャルビジネスを継続的に応援しています。

- ソーシャルビジネスについてセミナーを開催
- 個別相談会を実施
- 初動期・発展期における資金支援
- ソーシャルビジネス事業としてマーク認証、広報誌で団体の事業を紹介

など

ソーシャル
ビジネス
事例集

Social Business Case Studies



今、大注目の
ソーシャルビジネスとは？



問い合わせ先

神戸市民参画推進局市民協働課
TEL/078-322-6491
MAIL/plat@office.city.kobe.lg.jp

神戸ソーシャルビジネス [検索](#)

KOBE 
UNESCO City of Design



多様化、複雑化が進む社会に、 ソーシャルビジネスが必要とされています

神戸市がソーシャルビジネスと位置づけ支援するのは、社会課題の解決に向けて自立的・持続的に提供されている事業です。社会課題を解決する、というあまりに意義深く自分とは無関係と思ってしまうがちですが、難しく考える必要はありません。「もっとこんな社会だったらいいのに」「困っている人を助けたい」という気持ちがあれば、すでにスタート地点にいます。NPOや企業などのソーシャルビジネス事業者の代表の話から、よりよい社会へのヒントを得てください。

case1

株式会社フードピクト

〒651-0096 神戸市中央区雲井通5-3-1サンバル6F

2006 フードピクトの取り組みを開始
2009 NPO法人インターナショナル設立
2010 APEC首脳会議にてフードピクト採用
2017 フードピクト事業を分社化、株式会社フードピクト設立
ソーシャルビジネスマーク(ステップアップ事業)認証

【事業内容】
フードピクトと呼ばれる世界品質の食材表示ツールのライセンスや研修プログラム、監査コンサルティングを提供

case2

福祉ネットワーク西須磨だんらん

〒654-0036 神戸市須磨区南町1-34稲葉プラザ2F(事務所)
〒654-0055 神戸市須磨区須磨浦通3-3-16(須磨いるサロン)

1993 高齢者福祉の取り組みを始める
1998 福祉ネットワーク西須磨だんらん設立
2012 須磨いるサロンをオープン
2015 ソーシャルビジネスマーク(ステップアップ事業)認証

【事業内容】
地域助け合い事業、福祉施設支援事業、ふれあい居場所事業

case3

神戸アジア食堂バル SALA

〒650-0022 神戸市中央区元町通2-3-16食味館1F

学生時代 在日アジア人就業支援のプロジェクトを立ち上げる
2015 神戸開業支援コンシェルジュを活用
2016 神戸アジア食堂バル SALAオープン
2017 ソーシャルビジネス推進助成(準備・創業期)採択

【事業内容】
在日アジア人女性の強みを活かした雇用の場の拡充を目的に、アジア食堂を運営

case1

言葉だけではなく、 文化の壁をも越えるツールを開発

神戸市中央区

株式会社フードピクト

代表取締役/菊池 信孝さん

フードピクトは失敗から始まりました。大学1年の時にサウジアラビアの留学生と外食する機会がありましたが、その留学生は豚と酒がNG。お店へ入っても、豚や酒が使われているのかが分からない。結局、マクドナルドでフィッシュバーガーを食べました。この苦い経験から世界中の人に伝わる食品表示の絵文字フードピクトは誕生。今の形に至るには、世界中の人にアンケートをとるなど、何度もデザインを改良しました。

ISO、JIS、CUDのガイドラインに基づき完成したフードピクトは今や、関西空港や飲食店のみならず、サミットなどでも活躍してくれています。ただ一方で、フードピクトの一般認知度はまだまだ。2020年には年間約四千万人になると言われる訪日外国人、そして国内でアレルギーがあって困っている人の手助けになれるようもっと広めていくことがミッションだと考えています。

1「神戸市のソーシャルビジネスマーク認証のおかげで、信頼度がアップしました」と菊池さん 2 フードピクトは道徳や社会の教科書でも紹介され、子ども向けの食育にも利用されている 3 食品メーカーへのアドバイスやセミナー開催も行う



case2

困ったときはお互いさま まちを家族に

神戸市須磨区

福祉ネットワーク西須磨だんらん

理事長/日笠 昭子さん

住み慣れたところで最期まで安心して暮らせるコミュニティづくりを目指し、西須磨だんらんを20年間続けてきました。その中でも、ソーシャルビジネスマーク認証を受けた「須磨いるサロン」は特別な位置付けです。ほとんど毎日、地域の方々に講師となってもらって文化教室「須磨いる塾」を開講し、元気な中高年が様々なスキルを活かして講師やスタッフとして働き、イキイキ輝く場となっています。また、寄付された衣類や雑貨の販売も大きな収入源で、地域に眠る資源と人材を生かしたことがビジネスとして成り立ったのが良かったですね。マーク認証後にいただいた神戸市の助成金と専門家派遣制度でプロのデザイナーさんの意見を伺い、内装の大幅リフォームと看板の新調ができ、「入りやすくなった」「広くなった」という嬉しい声も。

人には居場所が必要です。高齢者だけではなく若い世代や子ども達にも助け合いのコミュニティを広げたい。憩いの場としての役目は、これからも続きます。

1 おしゃれで温かな雰囲気の日笠さん 2 次世代のリーダー宗政さんは大学卒業後にボランティアで参加して以後、西須磨だんらんを支え続けている 3 教室ではいつも笑い声が絶えない。パステル和アートは色彩豊かで心も明るくなる

case3

興味を持つ、声をあげる そして、やってみる

神戸市中央区

神戸アジア食堂バル SALA

代表/黒田 尚子さん

お店のコンセプトは、「Empowerment Of All People」。国籍も性差も大人も子どもも関係なく、お互いの価値を認め合える社会にという希望が込められています。

学生時代、在日アジア人女性の活躍の場がすごく狭いことを目の当たりにし、少しでも支えになればと彼女たちが作る料理を屋台で提供。概ね好評でしたが、学生のことには限界があります。卒業後は就職し、飲食店の経営手法などを学びました。その後2016年に念願のお店をオープン、2017年にはソーシャルビジネス推進助成に採択されました。

今後は店舗を増やし通販も軌道に乗せ、在日アジア人女性をたくさん雇用したい、夢を持ってもらいたい。そして、社会問題に関心のない人にも、SALAでアジア料理を食べたことをきっかけに、アジア人女性の背景や文化、生きづらい現実を知ってほしいですね。変だと思ったことは、声をあげてみる。そこから始まるものを信じています。

1 チャーミングな黒田さんはよく笑い、人を惹きつける魅力がある 2 夢を語るスタッフたちにも笑顔がこぼれる 3 アジア各国で生産されたストーリーのある小物たちをインテリアに揃え、興味を持ってもらう仕掛けに

